



## 新型コロナ政策への『三密』の提言

### ～感染した人間がいるか・いないか～

起 「午後 8 時まで、アルコール禁止、5 人以上は禁止!」のお上のおたっしに国民は戸惑うばかり。

2021年3月末厚労省の退職慰労会で、午後12時まで、アルコール付き30人以上で会食。厚労大臣が責任を取って2ヶ月の減俸が話題になった。厚労省役人は身内の集まりでコロナの発生が起きないと判断して?社会的に羽目を外した、以前のいつも通りに。

問題は「!」がおかしい。そこには、感染した人が居るかどうかは問題になっていない、ただ三密だから「!」を問題にした通達・命令がまかり通っている。

承 ところで三密とはなに?

100年前の大正12年第1次世界大戦後に“スペイン風邪“でパンデミック発生。当時は”流行り風邪“として恐れられ、『三密』の言葉が生まれた。なぜなら、原因菌も分からず・防疫対策もままならない中での三密発想。

転 2019年12月武漢で新型コロナが発生。すぐに病原菌 SARS-COV19 は同定された。数ヶ月するうちにPCR検査が確立し、3月頃からコロナワクチン開発、接種が始まっている。ニュージーランドでは新型コロナの集団免疫効果があがり日常生活を取り戻しつつある。

結 新型コロナ対策は政策判断と言うよりもあくまで医学・科学の診断が必要。

1) 地域臨床医がみた感染症の大原則 は、感染症は「いるか」・「いないか」

2) 発症を「時間軸」と「空間軸」の2つで確認することが重要。

「空間軸」(東京)だけで、「時間軸」(2週間で・この5月中は)だけでは収束しない。

また、学問的に確立した感染症3大要素があり

1) 「病原菌」…何が?新型コロナウィルス ⇒PCR検査で診断

2) 「感染源」…いつ? どこで? 発生場所

3) 「伝搬経路」… ① 接触感染 ② 飛沫感染 ③ エアロゾル

感染症としての対策を厳密に行うそのためには、「宇宙」と「人間」という自然界の理を無視して防げるものではない。

すなわち宇宙の①「宇」は「のき」(空間軸)を意味し、

②「宙」は「とき」(時間軸)の天体の摂理を大切にして

人間はウィルスとの長年の共存を 図っており、ウィルスにとって人間は生き延びるための宿主であり、ウィルスに「人間」がどう関わるかが問われている。

今重要な方策は 『三密』ではなく、空間・時間・人間の『三間』である。